

## 学識経験者の意見等(知見の活用について)

教育委員会の事務点検評価報告書作成過程において、次のとおり学識経験者から意見があり、それらを踏まえ部分的に修正を行いながら、本点検評価報告書を作成した。

### 1. 全体を通して

#### 駿河台大学 平野和弘 先生

本市は「豊かな人間性の育成」を教育行政の理念に掲げ、その実現のために、①学校教育の充実、②地域との連携と生きる力の育成、③学びと実践による地域づくり、が必要であると措定し、教育行政に取り組んでいます。この方向性を確認、堅持しつつ、人権教育、生涯学習、幼児・学校教育、社会教育、それぞれの取り組みに「市民とともに」という観点が貫かれ、「子ども未来室事業」にみられるように障害のある子どもや、子育て世帯への援助など、市民サービスの中で見落とされがちな人や環境に目を配り、教育行政理念を貫かれていることに敬意を表します。成果をあげているとの評価も妥当だと考えております。実践を大切にしている方向性は、施策と実際に取り組んだ内容がリンクし、市民に可視化され、信頼を得ると考えております。評価も適切なものでありました。

人権教育に関しては、その目標において「差別のない、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重する社会を目指す」ことが、それぞれの施策による評価であらわれており、市民生活に寄り添っている姿勢がわかります。特に平和施策の推進において、中学校における「平和を願う講演会」をすべての学校で実現させ、あわせて若手教員への同和問題に対する認識の高揚を図る取り組みがなされ、児童生徒の成長と教師の育成がリンクされており、この取り組みの質の高さがうかがわれます。

生涯学習についても、市民の主体的な取り組みを促し、その環境づくりに向き合う姿勢は優れています。ただ、昨年度も示しましたが、この点については学習成果の活用において、一歩踏み込んだ施策、そして評価が求められています。

今回の施策全体とその評価は、今ある姿をどのように育てていくのかという点に重点が置かれています。生涯にわたり市民が「学び続けることができる」ことを目指しています。その先、未来の市民を描く、市民教育の視点が盛り込まれることを望みます。「市民の不都合を市民のせいにはさせない」と共に、市民自らが教育行政に参画していく視点でもあります。小さな例として、成人式の取り組みがあります。成人年齢が引き下げられたことに伴い、成人式の在り方の取り組みが問われています。本市では中学生ボランティアの募集に特徴があり、大人が授ける式という形から、子どもから大人への橋渡しを、若者自らの手で取り組ませる、つまり保護される側から、社会で主体的に生きる側への転換を、世代間の交流に位置付けることで、「社会で生きる」はじまりにつながっています。このような取り組みこそが、市民として生きる、市民教育の一環でもありと考えております。

「学校教育の内容の充実における学校教育課の取り組み」における目標「子どもたち

一人ひとりについて、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を目指す」の項目。取り組み状況における教職員の負担軽減の考慮など、政府の働き方改革に沿った、現場サイドに立った実践的な取り組みです。この取り組みと子どもたちの学力や心、体を育てることと、どのようにつながっていくのか、いかなかったのか、どのような取り組みを行い、どのような成果が出たのか、または出なかったのか、その関係性に切り込む自己評価が必要とされています。

昨年と同様、全体的に教育をひとつの学校に閉じ込めることなく、小中一貫教育の推進や、幼保小中高接続研修会などの開催や、地域を視野に入れた教育内容、学校給食などを進め、社会教育における郷土に関連した事業や、お茶に関する教育普及活動にもつながり、学校種別を乗り越え、地域と連携させていく意図的な取り組みがこの点検・評価報告書からもうかがえ、高い評価は妥当です。既存の優れた施策や対象をより一層充実させるとともに、具体的な取り組み内容と成果を可視化させ、新たなアイデアに結びつけ、具体化させていきたいものです。

## 東京家政大学 宮地孝宜 先生

前年度の令和元年度(平成 30 年度対象)および前々年度の平成 30 年度(平成 29 年度対象)の点検・評価において、自己評価を拝見し、意見を述べさせていただきましたが、それぞれの年度に示されていた課題・改善点を翌年度の事業計画に反映し、事業が遂行されています。

評価にあたって、より客観性を担保するよう随所に工夫が施されており、PDCAサイクルによる事務の管理・執行が行われています。

また、全体として非常にコンパクトで、市民の皆様が理解しやすいよう内容を精選されているという点も、実際に市民の皆さんに読んでいただける報告に繋がるなど、意味のある報告書であると評価できます。

より充実した評価とするため、全体的な課題を示させていただきます。

1. 情報が精選されている一方で、情報量が少ない分、説明不足な点、分かりづらい箇所があります。
2. 数値目標が設定されていない事業もあり、全体としての統一感が損なわれています。
3. 事業目標として「計画通り実施」という記述が目立ちますが、参加者数などの事業実績に加えて、事業の直接的効果(短期的アウトカム)などを、事業目標(数値目標)として設定すべきではないでしょうか。
4. 数値目標の設定についての根拠が示されていない箇所があります。また、数値目標の年度推移などを示すなどされるとよいと思います。
5. 事業によっては、教育委員会内で統一した評価の基準、評価方法などを設定されるとよいかと存じます。
6. 評価指標の設定については、今後、研究され、より効果的な数値目標を設定されることに期待いたします。

以上、いくつかの課題をお示しましたが、教育委員会として点検・評価に真摯に向き合い、取り組んでおられると見受けられます。自己評価結果から、それぞれの事務は効果的に管理、執行されていると判断いたします。

## 2. 各基本目標について

点検評価に対する学識経験者の意見は、次のとおり分担して依頼した。

駿河台大学 平野和弘 先生

### ①全体を通した評価

### ②政策(項)ごとの評価

#### 政策3 幼児・学校教育

##### 第1項 学校教育の充実

##### 第2項 子ども・子育て支援の充実

##### 第3項 学校施設の整備

東京家政大学 宮地孝宜 先生

### ①全体を通した評価

### ②政策(項)ごとの評価

#### 政策1 人権教育

##### 第1項 人権の尊重と権利の擁護

#### 政策2 生涯学習

##### 第1項 生涯学習の推進

#### 政策4 社会教育

##### 第1項 社会教育の充実

##### 第2項 社会教育施設等の整備

